

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。観光と地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。地域の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- ガイダンス
- 観光による地方創生①
- 観光による地方創生②
- 観光による地方創生③
- 観光による地方創生④
- 観光地と地方創生⑤
- 観光地のブランド化①
- 観光地のブランド化②
- 観光地のブランド化③
- フィールドワーク準備①
- フィールドワーク準備②
- フィールドワーク準備③
- フィールドワーク準備④
- フィールドワーク準備⑤
- まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。
フィールドワークへの参加は必須である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- | | | |
|--------------------|----|--------|
| 1 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 2 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 3 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 4 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 5 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 6 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 7 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 8 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 9 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 10 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 11 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 12 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 13 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 14 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 15 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。
また、文学作品に描かれた文化内容を考察するため、担当教員による文学作品の講読を行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

万城目学『梧浄出立』（2017年、新潮文庫、490円）

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

私たちの社会生活の中でことばによるコミュニケーションは欠かせないものであり、世界のあらゆる言語はその土地の文化や現代社会の課題などとも深く関わっています。ことばのあり方を探ることによって、社会や文化のあらゆる側面を探ります。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

言語と文化を中核として社会言語学とコミュニケーション論を基礎として学ぶ。授業では幅広く分野を取り扱い、言語（英語及び日本語）/文化/社会について幅広く興味に応じて対応する。授業は学生主体で行い、調査や分析方法を学びながらプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 発表とディスカッション
夏休み期間に学習した内容について発表する。
- 3 参考文献を用いたディスカッション
- 4 参考文献を用いたディスカッション
- 5 参考文献を用いたディスカッション
- 6 参考文献を用いたディスカッション
- 7 参考文献を用いたディスカッション
- 8 参考文献を用いたディスカッション
- 9 参考文献を用いたディスカッション
- 10 参考文献を用いたディスカッション
- 11 参考文献を用いたディスカッション
- 12 参考文献を用いたディスカッション
- 13 参考文献を用いたディスカッション
- 14 参考文献を用いたディスカッション
- 15 個人課題の発表・ディスカッション

授業の方法

それぞれの興味関心について授業で取り扱い、発表とディスカッションを行う。学生の主体的な授業参加が必要となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価は出席30%、発表30%、授業態度20%、課題20%とする。

欠席について

規定の通りとする。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。観光と地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表準備を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。地域の観光資源調査（フィールドワーク）を実施し、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティング&マネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 フィールドワーク調査確認
- 3 フィールドワーク①
- 4 フィールドワーク②
- 5 フィールドワークの調査結果のまとめ①
- 6 フィールドワークの調査結果まとめ②
- 7 フィールドワーク調査結果まとめ③
- 8 フィールドワークの報告書作成①
- 9 フィールドワークの報告書作成②
- 10 フィールドワーク報告会
- 11 フィールドワークのまとめ
- 12 個人課題の研究発表と討論
- 13 個人課題の研究発表と討論
- 14 個人課題の研究発表と討論
- 15 まとめ

授業の方法

フィールドワークの調査及び報告書の作成とプレゼンテーションを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習には自主性及び積極性が求められる。フィールドワークの参加は必須である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容より、英米文学をより正確に深く読み取れるよう、日々、英米文学作品に親しむ。
さらに、各自が定めたテーマについて、より適切な書籍や論文等の資料を収集し、丁寧に調査を行い、論の裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現することを目指す。かつ、聴き手が正確に理解できるような研究発表ができるよう、発表の演習も行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ基礎力をもとに、各自が決定した研究のための資料、データ、先行論文等を調査、分析を行い、授業内において、各自が作成した論文を発表し、それについてゼミの全員でディスカッションを行う。
また、昨年に続き、英米文学やエッセイなどの原書や時事ニュースを読解することにより、英語力の向上を図る。毎授業において、発表とディスカッションを行うので、授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
卒業研究について発表する。
- 2 課題の発表
- 3 課題の発表
- 4 課題の発表
- 5 課題の発表
- 6 課題の発表
- 7 課題の発表
- 8 課題の発表
- 9 課題の発表
- 10 課題の発表
- 11 課題の発表
- 12 課題の発表
- 13 課題の発表
- 14 課題の発表
- 15 最終発表を行う。

まとめ

授業の方法

個人研究の発表とディスカッションを中心に行う。
発表毎にレポートを提出する。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 30%、発表 40%、レポート 30%
課題、発表のフィードバックは授業中に行う。レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

出席を重視する。欠席1回について平常点より4点減点する。
規定に従う。

テキスト

ハンドアウトを使用する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加し、発表と毎回のレポート提出が必須である。
出席を重視する。
平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- 1 ガイダンスと個人研究の進め方
- 2 個人研究テーマの発表
- 3 個人研究発表とディスカッション
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 個人研究発表とディスカッション
- 8 個人研究発表とディスカッション
- 9 個人研究発表とディスカッション
- 10 個人研究発表とディスカッション
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 個人研究発表とディスカッション
- 15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- 1 ガイダンスと卒業研究進行状況報告
- 2 個人研究発表とディスカッション
- 3 個人研究発表とディスカッション
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 個人研究発表とディスカッション
- 8 個人研究発表とディスカッション
- 9 個人研究発表とディスカッション
- 10 個人研究発表とディスカッション
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 個人研究発表とディスカッション
- 15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 第三章原稿発表。
- 3 The Unquiet Graves: The Picture
- 4 教員からの添削をもとに1章を完成する。
- 5 The Unquiet Graves: Rats
- 6 The Unquiet Graves: The Casting Runes
- 7 教員からの添削をもとに2章を完成する。
- 8 The Unquiet Graves: The Experiment
- 9 The Unquiet Graves: "Oh, Whistle, Come to You, My Boy"
- 10 教員からの添削をもとに3章を完成する。
- 11 教員からの添削をもとに序章を完成する。
- 12 教員からの添削をもとに結論を完成する。
- 13 教員からの添削をもとに全体の推敲を確認する。
- 14 I, Robot: Catch That Rabbit
- 15 I, Robot: The Liar

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光地理論			13840	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

旅行地理の基礎と国内外の観光・歴史・宗教・文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本及び海外の観光地における地理とその地域における観光資源、文化歴史などについて深く学ぶ。各地域の観光地としての価値や地域伝統の継承などについて資料を基に解説を行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 北海道
- 3 東北地方
- 4 関東地方
- 5 中部地方
- 6 関西地方
- 7 中四国地方
- 8 九州・沖縄地方
- 9 アジア
- 10 ヨーロッパ①
- 11 ヨーロッパ②
- 12 南北アメリカ
- 13 オセアニア
- 14 中東・アフリカ
- 15 まとめと試験

授業の方法

テキスト及び配布資料を基にアクティブラーニングを行い、講義を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、課題20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り

テキスト

国内旅行地理 プラクティカル (JTB能力開発)
海外旅行地理 プラクティカル (JTB能力開発)

参考図書

講義内で案内します

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国連は2017年「開発のための持続可能な観光の国際年」と定めた。「持続可能な観光」について学び、グローバル社会における観光と環境に関する課題について考える。また世界的な認証である「サステイナブルツーリズム国際認証」について学び、自然環境と観光を融合した「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」などについての理解を深めることを目的とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

国連の「持続可能な開発目標（SDG's）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標（持続可能な開発のための2030アジェンダ）であり、この目標は観光においても例外ではない。2017年国連が「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定するなど、現在「サステナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっている。世界の観光旅行人口は約13億人を超え、多くの人が世界各地の観光地を訪れている。その中でいかに自然環境を守りつつ、観光を持続的に発展させていくのかを学ぶ。講義では主に「サステイナブルツーリズム」、「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」について学び、自然環境と共存し持続可能なツーリズムの仕組みについて事例を通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 SDG'sと「持続可能な開発のための2030アジェンダ」について
- 3 サステイナブルツーリズムと国際認証について
- 4 サステイナブルツーリズムの事例と課題
- 5 エコツーリズムについて（エコツーリズム推進法）
- 6 エコツーリズムの事例と課題①（国内）
- 7 エコツーリズムの事例と課題②（海外）
- 8 グリーンツーリズムについて
- 9 グリーンツーリズムの事例と課題①（国内）
- 10 グリーンツーリズムの事例と課題②（海外）
- 11 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
- 12 ジオパークとジオツーリズム
- 13 観光におけるシェアリングエコノミーについて
- 14 オーバーツーリズムについて

15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『サステナブルツーリズム』 藤稿亜矢子著 晃洋書房
『SDG'sの実践』自治体・地域活性化編 村上周三他著 宣伝会議
『外国人が熱狂するクールな田舎の作り方』 山田拓 新潮新書
『楽しもう！エコツーリズム』 風見信昭著 秀明出版会
『MaaS モビリティ改革の先にある全産業のゲームチェンジ』 日高洋祐編著 日経BP社

留意事項

アクティブラーニングを中心とするので積極的な講義への取り組みを求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行業			

授業の到達目標

観光は、観光行政（官）と観光産業（民）で構成される。これらを合わせて観光事業である。観光を推進し、地域を活性化させる政策とはどのようなものかを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解し、課題を見つけることが目標である。また、産業としての観光事業を各業界別に理解し、未来を展望する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。この講義は観光概論を発展させ、より深く探求する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策に重点を置き、観光産業との2分野を中心に学修する。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業等の役割と戦略を理解し、グローバル社会での観光の問題を全体のテーマとする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光事業の変遷
- 3 観光事業の現状と課題
- 4 観光政策①（観光立国）
- 5 観光政策②（観光基本法）
- 6 観光政策③（DMO）
- 7 海外の観光政策①（欧米）
- 8 海外の観光政策②（アジア）
- 9 旅行事業
- 10 宿泊事業
- 11 航空事業
- 12 IR事業
- 13 テーマパーク事業
- 14 地域の観光事業
- 15 まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグルー

プに分け課題に対し意見交換し、発表を行う。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点20%、課題30%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『入門 観光学』竹内正人編著 ミネルヴァ書房
『現代の観光事業』北川 宗忠著 ミネルヴァ書房
『1からの観光事業論』高橋一夫著 碩学舎

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について学ぶ。また観光地として人気の高い国内及び海外の世界遺産を取り上げて、世界遺産の歴史や観光地としての価値について理解することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制度について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題や観光地としての価値と課題についてグループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 世界遺産条約と登録制度
- 3 文化的景観について
- 4 日本の文化遺産①
- 5 日本の文化遺産②
- 6 日本の文化遺産③
- 7 海外の文化遺産①
- 8 海外の文化遺産②
- 9 海外の文化遺産③
- 10 自然遺産の分類と特徴
- 11 自然遺産①（国内）
- 12 自然遺産②（海外）
- 13 危機遺産・負の遺産
- 14 トランスパウンダリー・サイトとシリアル・ノミネーションについて
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著 マイナビ出版

参考図書

『世界文化遺産の思想』西村幸夫著 東京大学出版会
『世界遺産ビジネス』木曾功著 小学館新書

留意事項

世界遺産検定2級・3級の取得を推奨する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,200万人を超えた訪日外国人観光旅行（インバウンド）ビジネスや2025年に開催される大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空（交通）についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス（訪日外国人旅行）について、地域との連携や課題について学ぶ。また、オリンピック、マラソンなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光ビジネスの変遷について(マスツーリズムからの脱却)
- 3 旅行業ビジネス①
- 4 旅行業ビジネス②
- 5 旅行業法・約款、景品表示法等
- 6 宿泊業ビジネス
- 7 航空業ビジネス
- 8 交通事業ビジネス
- 9 MICEビジネス①
- 10 MICEビジネス②
- 11 スポーツツーリズム
- 12 インバウンドビジネス①
- 13 インバウンドビジネス②
- 14 地域創生と観光ビジネス
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著
東洋経済新報社
『CSV観光ビジネス』藤野公孝編著 学芸出版社
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著 大修館書店

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊事業実務			

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。企業が生まれ、成長し、発展していくが、その企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献できる企業とは。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A) 自律と(In) 国際性を養う。

授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。各業界における市場環境はどのようになっているのか。企業が生き残るためのリスクとは何か。研究対象の企業は、成長分野であるのか、衰退するなのか、差別化はできているのかなどをポイントに分析をする。講義の主な業種はホスピタリティ産業から金融、製造業など様々な企業を対象とする。有価証券報告書を参考に同業種や他産業の比較の中で、企業の姿を理解していく。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 株式会社と株式市場
- 3 企業と市場環境
- 4 企業研究(製造業・金融業)
- 5 企業研究(製造業・金融業)
- 6 企業研究(製造業・金融業)
- 7 企業研究の発表
- 8 企業研究の発表
- 9 前半のまとめ
企業研究の要点
- 10 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 11 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 12 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 13 企業研究の発表
- 14 企業研究の発表
- 15 後半のまとめ
企業研究と発表
- 16

授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はPowerPointでおこなう。

準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。
授業で注目した企業を紹介する。

課題・評価方法、その他

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。
評価基準は課題レポート(70%)と発表(30%)

欠席について

規定通り

テキスト

日経業界地図(日経出版社)

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修		13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務		

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
 2. 旅行会社での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
 3. グループワーク課題を実践する。
 4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。（総合旅程管理主任者資格の取得）
- このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う

授業の概要

春休みの1週間を利用して海外の観光地を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。またそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地では旅行会社の協力を得ながらホテル視察、観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。また旅程管理研修（3日間）を受講する必要がある、終了テストに合格する必要がある。

授業計画

- 1 オリエンテーション・事前準備の確認
- 2 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
- 3 旅程管理研修①
- 4 旅程管理研修②
- 5 旅程管理研修③
- 6 実地研修1日目：関空出発～目的地
- 7 実地研修2日目：ホテル研修・現地旅行会社訪問他
- 8 実地研修3日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
- 9 実地研修4日目：研修地の移動
- 10 実地研修5日目：ホテル研修・現地旅行会社訪問他
- 11 実地研修6日目：日系企業訪問
- 12 実地研修7日目：帰路の空港見学・帰国
- 13 現地でのグループワークの事後発表の準備

- 14 現地でのグループワークの事後発表
- 15 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また旅程管理研修の講義を受け、試験に合格する必要がある、研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの現地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法、その他

事前研修、海外研修の総合評価。

欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り欠席はできない。

テキスト

総合旅程管理主任者テキスト（受講者に事前説明有り）

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座（ツアーコンダクター）と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更又は中止になる事がある。また研修実施には最少催行人員（10名）の規定が適用される。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ツーリズム実務特論		13450	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
酒井 新一郎	必修	1	旅行会社勤務		

授業の到達目標

観光業界は大きな転換期を迎えており、新しいビジネスモデルが日々創出されている。現在、観光業はコロナウイルスの影響を受け、新たな事業収益を創造している。また2025年には大阪万博やIR事業の開設などを控えて、観光産業は大きなビジネスチャンスが到来している。各分野の第一線で活躍しているビジネスパーソンの講師から事業現場の話聞き、課題を発見し、解決策を見出すことを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

本講義は、観光分野のプロフェッショナルの外部講師による講演を中心に、各分野で活躍する講師には旅行、ホテル、航空会社、観光局（DMO）などから招き、現場の最前線での仕事内容や課題などについて学ぶ。各講義前には登壇する講師の業界について調査し、講義後「気づきや学び」をレポートとして提出する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 講義①
- 3 講義②
- 4 講義③
- 5 講義④
- 6 講義⑤
- 7 講義⑥
- 8 まとめと試験

授業の方法

外部講師による講義を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求める。

評価は平常点50％・課題レポート50％

欠席について

学則の通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

外部講師による講義の為、講義中の態度・服装には留意すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

- 1 <人魚>をテーマに、アンデルセン(ヨーロッパ)・ディズニー(アメリカ)・小川未明(日本)の表現の違いを考察する
- 2 <民話>をテーマに、南洋諸島と戦前の日本委任統治の歴史的背景を考察する
- 3 <怪談>をテーマに、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が描いた日本を考察する
- 4 <絵本>、<人形>をテーマに、物語に託されたそれぞれの国の文化的背景を考察する
- 5 <移民>をテーマに、日本からのブラジル移民に注目し、当時の政府の政策と神戸港の対応を考察する
- 6 <MANGA>をテーマに、日本の漫画の発展と世界進出について考察する
- 7 <レビュー>をテーマに、宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する
- 8 <留学>をテーマに、森鷗外「舞姫」に描かれた、明治初期のドイツと日本の社会状況の相違について考察する
- 9 宝塚歌劇「MAIHIME」を考察する。(原作:森鷗外「舞姫」)
- 10 塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1 ヴェネチア」に描かれた、イタリアとトルコの文化背景の違いを考察する
- 11 宝塚歌劇「ヴェネチアの紋章」を考察する。(原作:塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1」ヴェネチア)
- 12 プレゼンテーション 発表授業
- 13 プレゼンテーション 発表授業

14 プレゼンテーション 発表授業

15 <ディズニー映画>に注目し、アメリカが描く東アジアについて考察する。

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ(国内)			13969	Ⅱ	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業(旅行会社・ホテル・観光局など)及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とA(自立)を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験(インターンシップ)及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日~2週間となる。尚、体験発表は10月上旬(秋学期・土曜日)に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 業界研究
- 3 企業研究
- 4 エントリーシート作成(自己PR)
- 5 インターンシップの目標設定
- 6 就業体験①
- 7 就業体験②
- 8 就業体験③
- 9 就業体験④
- 10 就業体験⑤
- 11 就業体験発表

授業の方法

グループワークを中心とした講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30%、就業体験50%、プレゼンテーション20%
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

講義内で紹介する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。(最低5日間の就業体験が必要)
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。履修者が30名を超えた場合は抽選とするので、第1回目オリエンテーションは必ず参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 研究の進め方
- 2 研究テーマについて発表
- 3 卒業研究の書き方(研究計画について)
- 4 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
- 5 個人発表と質疑応答
- 6 個人発表と質疑応答
- 7 個人発表と質疑応答
- 8 個人発表と質疑応答
- 9 個人発表と質疑応答
- 10 個人発表と質疑応答
- 11 個人発表と質疑応答
- 12 個人発表と質疑応答
- 13 研究計画書の発表
- 14 研究計画書の発表
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは3年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
 内藤耕 (2015) 『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション、卒業研究第一章発表
- 2 Tales of Mystery and Imagination: "The Fall of the House of Usher"
- 3 Tales of Mystery and Imagination: "The Fall of the House of Usher"
- 4 第1章の原稿発表。
- 5 Tales of Mystery and Imagination: "The Black Cat"
- 6 Tales of Mystery and Imagination: "The Black Cat"
- 7 第二章の構想発表。
- 8 Tales of Mystery and Imagination: "The Mask of Red Death"
- 9 Tales of Mystery and Imagination: "The Mask of Red Death"
- 10 第二章原稿発表。
- 11 Tales of Mystery and Imagination: "William Wilson"
- 12 Tales of Mystery and Imagination: "William Wilson"
- 13 Tales of Mystery and Imagination: "The Tell-Tale Heart"
- 14 Tales of Mystery and Imagination: "The Tell-Tale Heart"
- 15 第三章構想発表。

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 ガイダンスとスケジュールの決定
- 2 卒業研究作成におけるwordの使い方
- 3 卒業研究の参考文献・引用文献について
- 4 卒業研究のアンケートと図表について
- 5 個人研究発表
- 6 個人研究発表
- 7 個人研究発表
- 8 個人研究発表
- 9 個人研究発表
- 10 個人研究発表
- 11 個人研究発表
- 12 個人研究発表
(研究成果の提出)
- 13 個人研究発表
- 14 個人研究発表
- 15 口頭試問

授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートする

こと。

課題・評価方法、その他

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
 内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
 浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	ホテル実務			

授業の到達目標

ホスピタリティは産業界では魔法の言葉の様に使われている。「ホスピタリティ溢れる企業だ」「我社はホスピタリティを提供している」など様々である。本来のホスピタリティとはどのようなものを歴史的視点、宗教的視点から考察する。日本語では「おもてなし」とも訳されているが、本来のホスピタリティとは何かを説明できることがこの授業の到達目標である。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

授業の概要

授業は、ホスピタリティを歴史的視点から考察するだけでなく、宗教的視点からも考察する。特に、キリスト教の聖書からホスピタリティ精神の理解を深める。さらに、現代社会でのユニバーサルデザインに注目し、ホスピタリティ精神の活用を検証する。観光産業におけるユニバーサルとホスピタリティとの関係を理解する。ホスピタリティ精神に基づくユニバーサル対応の接遇マニュアルの解説も行う。

授業計画

- 1 ガイダンス
(ホスピタリティ精神とはどのような意味か、また何を学修をするのか。)
- 2 世界の宗教
(奉仕の精神で、何だろう)
- 3 聖地巡礼とホスピタリティ精神
(いつか訪れたいな聖地)
- 4 ホスピタリティと都市国家
(ボリスに暮らす人たちはどのような様に身を守ったのだろうか)
- 5 組織とホスピタリティ
(経営者はどのようにホスピタリティ精神を活用すべきか)
- 6 ホスピタリティとマナー
(マナーとホスピタリティの違い)
- 7 ユニバーサルデザイン
(ユニバーサルデザインはあなたの周りに沢山あります)
- 8 ユニバーサルデザインに基づく接遇
(ユニバーサルデザインはハードだけでなく、ソフトが重要)
- 9 接遇マニュアル宿泊部門
(宿泊接遇のポイントを学ぼう)
- 10 旅行代理店とユニバーサルツーリズム

(ユニバーサルツーリズムとはどのような旅なの)

- 11 観光都市とユニバーサル
(都市経営に必要なユニバーサルデザイン、少子高齢化の未来へ挑戦)
- 12 医療とホスピタリティ
(医療現場で患者を〇〇様と呼ぶ?)
- 13 ホテル業に観るホスピタリティ
(サービスを超越するホスピタリティとはどのようなこと)
- 14 まとめとホスピタリティ精神についてグループディスカッション
(どれだけホスピタリティ精神を理解したでしょう)
- 15 統括試験とホスピタリティの課題
- 16

授業の方法

PowerPointによる講義と受講者間の意見交換を中心に進めていく。

準備学修

聖書の中からホスピタリティ関連の言葉(文例)を探しておくこと。

課題・評価方法、その他

課題30%
統括試験70%

欠席について

大学規定通り

テキスト

特になし
適宜資料配布

参考図書

聖書

留意事項

必修科目です。ノートをとること。

オフィスアワー

指定日に研究室で実施。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。また、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化についての理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

多様な文化的背景を持つ複数のゲストスピーカーを講師に招き、習慣や行動、その背景にある価値観などを学ぶ。また、グループで様々な国・地域の歴史・社会・文化の特徴について発表し、全体で討議することを通して、国際理解を深める。

授業計画

- 1 受講のガイダンス
- 2 英語圏の文化①(ヨーロッパ/北アメリカ/オセアニア地域を中心に)
- 3 グループ課題の発表と討議
- 4 英語圏の文化②
- 5 英語圏の文化③
- 6 文化とは何か
- 7 異文化の認識
- 8 振り返り
- 9 価値観
- 10 差別を考える①
- 11 差別を考える②
- 12 異文化コミュニケーション
- 13 異文化摩擦/カルチャーショック
- 14 全体のまとめ
- 15 試験

授業の方法

講義を中心とし、グループ発表とディスカッションを取り入れる。また、各項目ごとに指定するWebページに自身の意見や考えを復習として提出し、それらを共有することで学びを深める。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（50%）、定期試験（50%）

欠席について

学則に従い、欠席は減点とする。

テキスト

池田 理知子・塙幸枝 編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション-身近な「異」から考える』(三修社)

参考図書

必要に応じて授業前、または授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山でなく社会の課題を観光の視点から考察する。観光全般の基礎知識の習得が目標である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光立国を目指す理由を考察する。観光概論は歴史、経済、政策、心理、主な観光産業等幅広い内容で講義される。

授業計画

- 1 ガイダンス
観光の現状を理解する。
- 2 観光学と観光の歴史
(観光の語源と定義・日本観光史他)
- 3 世界の観光史
- 4 観光と地域文化
(観光と環境)
- 5 新時代の観光文化
(観光資源とコンテンツツーリズム)
- 6 観光と多文化理解
- 7 観光心理
- 8 観光とマーケティング
- 9 観光の諸政策
(観光政策と仕組み)
- 10 主要な観光事業・鉄道事業
- 11 主要な観光事業・航空運送業
- 12 主要な観光事業・宿泊業
- 13 主要な観光事業・旅行業
- 14 主要な観光事業・遊園地とテーマパーク
- 15 観光学まとめ
総括試験

授業の方法

パワーポイントによる講義とグループディスカッション

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

課題30% 統括試験70%

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

適宜資料配布

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社
高柳直弥他『新時代の観光を学ぶ』八千代出版 2019

留意事項

観光領域の基礎科目である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル経営			

授業の到達目標

GDP（国内総生産）の中で観光分野は大きなシェアを占めている。それは雇用の面でも同様である。観光は経済的な側面だけでなく国際交流の一面を持つ。世界の人々が国境を越えて互いに交流することは相互理解の促進に寄与する。この交流こそが平和への道筋である。お互いを理解し、認め合うことが、観光を通じて達成されるものと確信する。この授業の到達目標は、国際交流が観光を通してどの様に形成されたのか、今後どのようにすれば国際間、民族間の相互理解が可能かを理解する能力を身に付けることにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

国際観光交流論の中心テーマは、アウトバンドとインバンドである。明治以降の日本のインバンドの歴史や観光政策から戦後の訪日外国人観光客の実態までを理解する。特に、新たな産業政策のひとつに組み込まれたインバンド政策を具体的に検証していく。また、観光先進国のフランス、ハワイの観光を理解することで今後の日本の観光戦略を考える。

授業計画

- 1 ガイダンス
国際観光交流論で何を学修するのかを理解する
- 2 日本における国際観光政策
- 3 国際観光政策と訪日外国人観光客
- 4 ビジット・ジャパン・キャンペーンと実態
- 5 コンベンションと国際観光
- 6 海外マーケットから見る国際観光
- 7 国際観光と旅行業
- 8 観光産業(宿泊・運輸・観光地)と国際観光
- 9 インバンド政策と法律
- 10 外客誘致機関と戦略
- 11 フランスの観光と歴史(コートダジュールの事例から)
- 12 ハワイの観光の歴史と現状
- 13 シンガポールとIR
- 14 まとめ(国際観光の意義や今後の課題)
- 15 総括試験と解説

授業の方法

PowerPointによる講義を中心に行う。適宜、グループディスカッションを行う予定。

準備学修

図書館で講読されている国際観光、ホテルレストラン、観光経済新聞等を読覧しておくこと。

課題・評価方法、その他

課題30% 総括試験70%

欠席について

大学規定通り

テキスト

資料は適宜配布

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社
その他、講義で紹介

留意事項

講義から得た知識から幅広く学修を重ねることに期待する。

オフィスアワー

オフィスアワー指定日は研究室で実施します。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,200万人を超えた訪日外国人観光旅行（インバウンド）ビジネスや2025年に開催される大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空（交通）についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス（訪日外国人旅行）について、地域との連携や課題について学ぶ。また、オリンピック、マラソンなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光ビジネスの変遷について(マストツーリズムからの脱却)
- 3 旅行業ビジネス①
- 4 旅行業ビジネス②
- 5 旅行業法・約款、景品表示法等
- 6 宿泊業ビジネス
- 7 航空業ビジネス
- 8 交通事業ビジネス
- 9 MICEビジネス①
- 10 MICEビジネス②
- 11 スポーツツーリズム
- 12 インバウンドビジネス①
- 13 インバウンドビジネス②
- 14 地域創生と観光ビジネス
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著
東洋経済新報社
『CSV観光ビジネス』藤野公孝編著 学芸出版社
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著 大修館書店

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊事業実務			

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。企業が生まれ、成長し、発展していくが、その企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献できる企業とは。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A) 自律と(In) 国際性を養う。

授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。各業界における市場環境はどのようになっているのか。企業が生き残るためのリスクとは何か。研究対象の企業は、成長分野であるのか、衰退するなのか、差別化はできているのかなどをポイントに分析をする。講義の主な業種はホスピタリティ産業から金融、製造業など様々な企業を対象とする。有価証券報告書を参考に同業種や他産業の比較の中で、企業の姿を理解していく。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 株式会社と株式市場
- 3 企業と市場環境
- 4 企業研究(製造業・金融業)
- 5 企業研究(製造業・金融業)
- 6 企業研究(製造業・金融業)
- 7 企業研究の発表
- 8 企業研究の発表
- 9 前半のまとめ
企業研究の要点
- 10 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 11 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 12 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 13 企業研究の発表
- 14 企業研究の発表
- 15 後半のまとめ
企業研究と発表
- 16

授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はPowerPointでおこなう。

準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。
授業で注目した企業を紹介する。

課題・評価方法、その他

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。
評価基準は課題レポート(70%)と発表(30%)

欠席について

規定通り

テキスト

日経業界地図(日経出版社)

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント		13831	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
一尾 敏正	選択	2	宿泊事業実務		

授業の到達目標

ビジネスにはWin・Winの関係が必要不可欠である。製造業の組織管理とホスピタリティ産業の組織管理の違いを学ぶ。ホスピタリティマネジメントはホスピタリティ産業の運営手法を学ぶ。ホスピタリティ産業は、形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティ産業の組織は、どのように管理されるべきか、どのように運営すべきかを考える。ホスピタリティ産業のマネジメント&マーケティングを理解することで、経営感覚を身に付ける。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。Dr.kotlerの理論に基づき、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティング戦略の基本を中心に構成されている。市場における競争優位は、製品の差別化で達成できるのか、模倣されない差別化とは何かを考える。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしで収益を上げることは可能か、収益とはどこからくるのかを理解する。マーケティングのフレームワークを理解し、外部環境やどのような戦略があるのかを学ぶ。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業（ホテル・旅館・テーマパーク等）から学ぶ。

授業計画

- 1 ガイダンス
(どの様なことを学修するか解説)
- 2 ホスピタリティの歴史と文化
(ホスピタリティ精神論での学びを復習)
- 3 ホスピタリティ・サービスの語源
(「最高のサービスを受けた」で、これってホスピタリティなの)
- 4 ホスピタリティ産業の製品特性
(ホスピタリティ産業には共通する特性がある。あなたはディズニースーツから帰った夜に手元に何が残っていますか)
- 5 マーケティング戦略・マーケティングミックス
(「製品・サービスが良ければ人は購入するの?」の疑問に答える)
- 6 .ホスピタリティ産業における企業理念・ビジョン
(バイト先の朝礼で「我社は〇〇を目指す」これって必要かあ?)
- 7 ホスピタリティ産業におけるSWOT分析とPDCA
(世の中の影響を受ける企業、乗り切る企業、どう違うの)
- 8 ホスピタリティ産業における労働生産性
(ホテル・旅館の労働生産性が低い?どうすればいいの、考えよう)
- 9 ホスピタリティ産業における顧客サービス
(顧客サービスで収益アップ、バイト先のあなたの行動が収益を変える)
- 10 .企業の広報とリスクマネジメント

(社長の「私は寝てないんだよ!」「どこもやっています」の一言で会社が潰れる)

- 11 .ザ・リッツカールトンに観るホスピタリティの実践
(グローバル企業に観るホスピタリティの実践に迫る)
- 12 組織と価値観 道頓堀ホテルの事例
(ラグジュアリーホテルだけでない、愛されるホテルは大阪にもあった)
- 13 .事例で考えるクレーム処理
(クレームを企業イノベーションに活用しよう)
- 14 企業再生 行き詰った企業を再生する
(企業を再生する本当の主役は誰だ)
- 15 まとめと総括試験

授業の方法

PowerPointによる講義。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%
総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

特に予定していない。
適宜資料配布

参考図書

服部勝人『ホスピタリティマネジメント入門』丸善
Jay B. Barney (岡田正大訳) 『企業戦略論』ダイヤモンド社
P.F.Drucker (上田惇生訳) 『マネジメント』
Kotler (平井祥訳) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を観る事で講義の内容が活かされる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論		13833	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務		

授業の到達目標

観光はディステーションと輸送機関、そして宿泊業の連携が重要である。特定の企業だけが独り勝ちができない。市場環境や地域性で影響を受ける。観光マーケティング論では観光事業の市場での行動を理解し、顧客が求める製品・サービスは何か、顧客価値を高めるにはどのようにすればよいかを理解する。ビジネスにはWin・Winの関係が必要不可欠である。観光マーケティングは観光産業全般に関する製品・サービスとリレーションを学修しマーケティング全般の理解を深める。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

講義はコトラー「ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング」を参考文献とし、マーケティングの基礎的内容から学修する。産業の特性やマーケティング戦略、ブランドポジショニングなどの基本理論を含め幅広く学修する。講義は事例を挙げて解説される。事例は、観光地・ホテル業・旅行業・レストラン業・ファストフード業・航空業などを取り上げる。事例を通してマーケティング理解する。

授業計画

- 1 ガイダンス:観光マーケティング論概要
- 2 観光とマーケティング
- 3 ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
- 4 戦略計画におけるマーケティングの役割
- 5 マーケティング環境
- 6 マーケティング情報システム
- 7 消費者の心理と購買行動
- 8 競争市場の原理
- 9 市場細分化における戦略
- 10 マーケティングミックス(製品)
- 11 マーケティングミックス(価格)
- 12 マーケティングミックス(流通)
- 13 マーケティングミックス(プロモーション)
- 14 テーマパーク運営から考えるマネジメント手法
- 15 まとめ

授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%総括試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

なし。資料配布する。

参考図書

Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』上・中・下ダイヤモンド社

留意事項

基礎科目(観光概論、観光事業論)の発展科目である。本学唯一のマーケティング講座である。観光領域を学ぶ学生は履修すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空事業論			13843	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石井 由美子	選択	2	日本航空株式会社元国際線客室乗務員研修講師として人材育成、インバウンド接客、SDGs教育に携わる			

授業の到達目標

グローバル市場の中で航空事業の歴史、ビジネス戦略を学び、航空事業について基本的な説明ができる。
航空事業の歴史やオープンスカイ政策とその後の各航空会社のビジネス戦略を理解し、グローバルライアンス、台頭するLCC（格安航空会社）とFSC（フルサービスキャリア）の戦略の違い、変化する世界の空港やその機能を理解する。また、一便の飛行機の運航の安全性と快適性がいかに多くの人々、セクションによって担保されているのかを総合的に理解する。
感染症、ウクライナ情勢、脱炭素社会など、変化する社会情勢にあって、航空業界がどのような課題を持ち、それに向けて対応しているか、どのような未来に向かうかを考える。
また、航空業界に限らず共通する「接客・おもてなし」についても基本的な考えを学び、普段の生活にも役立ち居る舞いを身につける。これらを通して、このクラスではKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の視座を持つことを目標とする。

授業の概要

エアラインビジネスのオペレーションの概要や歴史、航空政策、空港の機能、経済特性、経営動向やエアラインが置かれている社会環境や課題などについて、身近な例や豊富な写真などを用いて、わかりやすく学習する。
航空業界は世界経済や社会情勢によって日々変化を余儀なくされる。新型コロナウイルスの感染拡大によって航空需要は一時コロナ前の9割にまで落ち込んだ。そして航空需要が復活した現在は、コロナ前とは違った価値観、需要が生まれている。航空事業に限らずどの業界にあっても、地球温暖化、脱炭素は生き残りをかけた戦略となっている。変化する社会情勢にあって、航空業界がどのような課題をもち対応しているのか、知識を得た上で自ら考える姿勢を養う。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、航空機の歴史
- 2 航空自由化への流れ オープンスカイ
- 3 空港の機能
- 4 客室乗務員の仕事
- 5 空港業務と旅客ハンドリング
- 6 JALとANA
- 7 接客の基本

- 8 SDGsとツーリズム
- 9 ネットワークとライアンス
- 10 FFP・ブランド戦略
- 11 LCCの台頭とFSCへの影響
- 12 空の安全
- 13 CIQの機能
- 14 航空貨物ビジネス
- 15 航空業界の脱炭素への取り組みと未来

授業の方法

講義を中心とするが、双方向のコミュニケーションをもち、グループディスカッション、間違えることを恐れず自由に発言できる機会をもつ。

準備学修

関連項目をWEB、関連図書で参照すること。

課題・評価方法、その他

課題提出40%、平常点（ワークショップなどの積極的な姿勢など）20%、定期試験40%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。
基本的には投影資料についてメモをとること。

参考図書

「エアラインビジネス入門 第2版」（2022）稲本恵子 編書
「航空産業入門 第2版」（2017）ANA総合研究所

留意事項

積極的な発言、参画意識を持つこと。
世界の航空産業の動きや日本の観光立国に向けた航空政策、観光業界、航空業界の脱炭素の取り組みなどに関するニュースなどは注目しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合はオフィスアワーを活用すること。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客誘致を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEI パーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1 ガイドダンス
- 2 ホテル産業史Ⅰ
- 3 ホテル産業史Ⅱ
- 4 ホテル産業史Ⅲ
- 5 宿泊産業の市場特性
- 6 ホテルの組織と役割
- 7 客室事業・基本業務
- 8 客室事業・組織とサービス
- 9 客室事業・価格戦略
- 10 料飲事業
- 11 バンケット事業
- 12 プライダル事業
- 13 MICE事業
- 14 ホテル再生
- 15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法、その他

課題30%、総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

適宜資料配布

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』
鈴木博、大庭禎一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目 <キッズ・教職>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET	13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援を発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方として理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を具体的には、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

15回出席を原則とし、1回の欠席で5点減点とする。

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目 <キッズ・教職>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）		13854	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長		

授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

学習指導要領が改訂され、教育に求められる課題も変わってきている。「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」をキーワードに教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。授業のまとめとして、「総合的な学習（探求）の時間」の単元計画の作成に取り組む。

授業計画

- 1 ☆はじめに・教育課程と総合学習
 - ・「教育課程」とは？・標準授業時数・「学習指導要領」とは？・「学習指導要領」の法的根拠・教育課程は、誰が決めるのか？・「総合的な学習（探求）の時間」の創設
- 2 ☆新学習指導要領のめざすもの
 - ・学習指導要領の改訂・新学習指導要領のめざすもの（改訂にこめられた願い）・新学習指導要領が示す具体的な改定のポイント
- 3 ☆「主体的・対話的で深い学び」とは
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師力・「カリキュラムマネジメント」の視点から
- 4 ☆「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の具体を考える①
 - ・宿泊行事について企画する・「教員の連携、複数の教科等の連携」を意識して
- 5 ☆「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の具体を考える②
 - ・宿泊行事について企画する・「カリキュラムマネジメント」の視点から
- 6 ☆先進校の実践に学ぶ
- 7 ☆小中一貫教育と教育課程
 - ・学校現場の課題の多様化と複雑化・小中一貫教育の大目的・小中一貫教育の成果
- 8 ☆小中連携・小中高連携
 - ・先進校の実践に学ぶ
- 9 ☆中学校学習指導要領 外国語科の改訂のポイント
 - ・先進校の実践に学ぶ
- 10 ☆総合的な学習（探求）の時間～学習指導要領改訂のポイント～
 - ・「総合的な学習の時間」の経緯

- 11 ☆総合的な学習の時間の目標
 - ・総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント
- 12 ☆目標を実現するにふさわしい探究課題
 - ・「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」を読む・「総合的な探究の時間」でぶつかる壁・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」より
- 13 ☆総合的な学習の時間の単元計画を考える
 - ・学校における実践事例・単元計画の具体例・探究的な学習の指導のポイント
- 14 ☆研究開発学校制度・単元計画を考える
 - ・研究開発学校制度について・総合的な学習の時間の単元計画を考える
- 15 ☆まとめテスト

授業の方法

毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）を読んでおく

課題・評価方法、その他

平常点（70%）、定期試験（30%）

欠席について

やむを得ず欠席する場合には、事前、事後に届け出る

テキスト

中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）最新版

参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小）文部科学省編 教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中）文部科学省編 教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（高）文部科学省編 教育出版

留意事項

毎回の授業のレジュメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習 (中・高)	ET	14214	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子/松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長		

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスでは KAISEI パーソナリティの A(自律)、I(知性)、及び E(倫理)を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である (1) 使命感・責任感・資質に関する知識、(2) 社会性や対人関係能力、(3) 教科の指導力について、十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業などの演習で、実際の教育現場での実践を想定しながら、確認していく。

授業計画

- ☆今、教育界を取り巻く社会の動きは？
・学習指導要領の改訂・生徒指導要領の改訂・人権三法・合理的配慮・インクルーシブ教育・これからの未来を語るキーワード
- ☆教師の人権感覚
・チェックシートから教師の人権感覚を考える
- ☆年度当初の「学年会議」を想定した実践演習
・「黄金の三日間」が勝負！
- ☆年度当初の「学年会議」「教科会議」を想定した実践演習
・中学1年生学級担任の所信表明・学年目標(指導方針)・三日間計6時間の学級活動の計画
- ☆外国語教育はこう変わっている①
・中学校学習指導要領 外国語科の改訂のポイント・先進校の実践に学ぶ
- ☆外国語教育はこう変わっている②
・先進校の実践に学ぶ・教育実習での授業を振り返る
- ☆主体的・対話的で深い学び①
・新学習指導要領が示す具体的な改定のポイント・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
- ☆主体的・対話的で深い学び②
・宿泊行事の企画会議を想定した実践演習
- ☆Integrated English①
・教科の指導力についての講義
- ☆Integrated English②
・教科の指導力についての講義と討論

- ☆「通知表の所見」を想定した「評価活動」の実践演習
・視聴覚資料を見て児童生徒の「行動の評価」を考える・通知表所見の表現の工夫
- ☆生徒指導の実践演習
・生徒指導の場面を想定してのケース検討と実践演習
- ☆「総合的な学習(探求)の時間」の実践演習②
・「総合的な学習(探求)の時間」の単元計画を考える
- ☆「道徳の時間」の読み物教材を検討する実践演習
- 資質能力の確認・まとめ ～講評

授業の方法

講義とグループワークを中心に授業を行う。グループワークでは、学年会議・教科会議を想定した実践演習や、総合的な学習の時間の単元計画などの作成、また生徒指導でのケース検討やロールプレイングなどを行い、実際の教育現場での実践を想定した演習を行う。

準備学修

これまでの教職関係の授業資料を準備し、復習しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、授業資料を配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

教職に対する情熱をもって授業に参加・貢献する誠実な態度が必要である。授業で配布するレジメや資料を、整理してファイルすること。授業の後半で提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等	14217	II/III	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学教頭小学校校長		

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA(自律)でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK(思いやり:傾聴力)とI(知性)状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書(文部科学省「生徒指導提要」)を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

- 生徒指導の意義と目的・「生徒指導提要」の改訂
- 教職員の人権感覚・組織対応
- 教育の現場の実践から学ぶ
- 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導①
- 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導②
- セクシャルマイノリティの理解
- 性に関する課題
- いじめ問題・情報モラル
- インターネット・携帯電話に関わる問題
- 少年非行①
- 少年非行②
- 自殺
- 安全防災教育・危機管理
- 進路指導とキャリア教育
- まとめテスト

授業の方法

授業は「生徒指導提要(令和4年12月)」にそって、毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

テキスト「生徒指導提要(令和4年12月)」(文部科学省)を読むこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「生徒指導提要(令和4年12月)」

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- | | | | | | |
|--------------------|----|------|----|--|--|
| 1 ガイダンス | | | | | |
| 2 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 3 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 4 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 5 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 6 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 7 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 8 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 9 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 10 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 11 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 12 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 13 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 14 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 15 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。
また、文学作品に描かれた文化内容を考察するため、担当教員による文学作品の講読を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

小川洋子『ミーナの行進』（2009年、中公文庫 686円）

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

私たちの社会生活の中でことばによるコミュニケーションは欠かせないものであり、世界のあらゆる言語はその土地の文化や現代社会の課題などとも深く関わっています。ことばのあり方を探ることによって、社会や文化のあらゆる側面を探ります。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

言語と文化を中核として社会言語学とコミュニケーション論を基礎として学ぶ。授業では幅広く分野を取り扱い、言語（英語及び日本語）/文化/社会について幅広く興味に応じて対応する。授業は学生主体で行い、調査や分析方法を学びながらプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を行う。

授業計画

- オリエンテーション
言語学にどのような分野があるのかを概説する。
- 発表とディスカッション
各自の興味関心があることについてクラス内で発表する。
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 個人課題の発表・ディスカッション

授業の方法

それぞれの興味関心について授業で取り扱い、発表とディスカッションを行う。学生の主体的な授業参加が必要となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価は出席30％、発表30％、授業態度20％、課題20％とする。

欠席について

規定の通りとする。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。観光と地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。地域の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 観光による地方創生①
- 3 観光による地方創生②
- 4 観光による地方創生③
- 5 観光による地方創生④
- 6 観光地と地方創生⑤
- 7 観光地のブランド化①
- 8 観光地のブランド化②
- 9 観光地のブランド化③
- 10 フィールドワーク準備①
- 11 フィールドワーク準備②
- 12 フィールドワーク準備③
- 13 フィールドワーク準備④
- 14 フィールドワーク準備⑤
- 15 まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。
フィールドワークへの参加は必須である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- | | | |
|--------------------|----|--------|
| 1 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 2 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 3 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 4 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 5 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 6 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 7 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 8 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 9 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 10 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 11 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 12 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 13 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 14 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 15 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。
また、文学作品に描かれた文化内容を考察するため、担当教員による文学作品の講読を行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

万城目学『梧浄出立』（2017年、新潮文庫、490円）

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 研究の進め方
- 2 研究テーマについて発表
- 3 卒業研究の書き方(研究計画について)
- 4 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
- 5 個人発表と質疑応答
- 6 個人発表と質疑応答
- 7 個人発表と質疑応答
- 8 個人発表と質疑応答
- 9 個人発表と質疑応答
- 10 個人発表と質疑応答
- 11 個人発表と質疑応答
- 12 個人発表と質疑応答
- 13 研究計画書の発表
- 14 研究計画書の発表
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは3年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
 内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 卒業研究 口頭試問

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

海外、および日本の文化や社会的事情に常に関心をもち、それらを詳しく調査、分析を行い考察することが重要である。たとえ日本文化に属する研究内容であっても、現在のような情報化社会においては、海外の資料や情報が欠かせない。各自が定めたテーマについて調査をし、裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現し、発表する。最終的に卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

各自の興味のあるテーマについて、国内のみならず海外の資料も入手して、丁寧な調査を行い、論理的思考を身につけ、卒業研究を書き上げる。授業では、各自の研究について発表とディスカッションを行うので授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
研究発表
- 2 卒業研究の発表とディスカッション
- 3 卒業研究の発表とディスカッション
- 4 卒業研究の発表とディスカッション
- 5 卒業研究の発表とディスカッション
- 6 卒業研究の発表とディスカッション
- 7 卒業研究の発表とディスカッション
- 8 卒業研究の発表とディスカッション
- 9 卒業研究の発表とディスカッション
- 10 卒業研究の発表とディスカッション
- 11 卒業研究の発表とディスカッション
- 12 卒業研究の発表とディスカッション
- 13 卒業研究の発表とディスカッション
- 14 総まとめ
口頭試問について
- 15 総まとめ

授業の方法

各自が選んだテーマについて、国内、および海外の書物、文献、論

文などの資料を収集し、正確に読解する。各自で論を構成できるよう論理的思考が身につける。授業では、各自の発表後にクラス内でのディスカッションを行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 30％、発表 40％、レポート 30％

欠席について

出席を重視する。欠席1回について平常点より4点減点する。規定に従う。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加し、発表と毎回のレポート提出が必須である。出席を重視する。平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

- 落語 その老 「寿限無」「芝浜」
- 落語 その式 英語落語の可能性・「鷲取り」
- 落語 その参 創作落語：グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」
- 落語 その四 女性落語家の活躍 落語「花嫁修業」
- 着物の基礎知識 その老 浴衣の着付け
- 着物の基礎知識 その式 帯結び
- 歌舞伎 その老 現代歌舞伎：シネマ歌舞伎の可能性「阿弓流為」
- 歌舞伎 その式 海外で最も人気の演目「連獅子」・「勧進帳」
- 歌舞伎 その参 日本作品を海外へ：和事歌舞伎の新演出 故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演
- 歌舞伎 その四 海外作品を日本へ：NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」
- 狂言 「附子」大藏流茂山狂言と和泉流野村狂言
- 能 その老 能「鉄輪」と野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り
- 能 その式 能「鉄輪」における、シテ方・ワキ方・狂言方
- 文楽 その老 「曾根崎心中」
- 文楽 その式 三谷幸喜による「其成礼心中」

授業の方法

講義が中心となるが、その他に古典芸能を鑑賞する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
コミュニケーションと文化			13419	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前に目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの一端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

授業計画

- イントロダクション
- 文化について
- 言語とは何か
- コミュニケーションの性質と要素
- 言語コミュニケーション
- 非言語コミュニケーション
- 振り返り
- グローバル化とメディア①
- グローバル化とメディア②
- 異文化交流の意味
- 差異とアイデンティティ
- 多文化共生①
- 多文化共生②
- 振り返り
- 試験

授業の方法

講義形式をとる。また、毎回テーマにあわせた質問事項を提示し、それに対する回答を必須とする。それを元に共に考え、意見交換をする。積極的な授業への参加が求められる。

準備学修

事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくること。また事後学習では、テキストや配布資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

池田 理知子・埜幸枝 編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション―身近な「異」から考える』（三修社）
適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業内で適宜紹介する

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET	13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)		

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。(箕野)

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。(宮副)

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。(箕野)
英米の児童文学の文化と歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外ではフランスの1作品を鑑賞する。(宮副)

授業計画

- 1 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
- 2 「金太郎」・「酒呑童子伝説」
- 3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 4 有島武郎「一房の葡萄」
- 5 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 6 岡田淳「童退治の騎士になる方法」
- 7 日本の現代児童文学について
- 8 英米の児童文学の歴史
- 9 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- 10 ナーサリーライム(マザーグース)
- 11 L.M.オルコット『若草物語』
- 12 R.L.スティーブンソン『宝島』
- 13 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 14 ペアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。(箕野)
講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。(宮副)

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験(レポート)30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。(箕野)

平常点30% レポート(2回)60% 提出物等10%、で評価する。(宮副)

レポートは2回であるが、ミニレポートの提出も2～3回求める。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。(箕野)
『英米児童文化 55のキーワード』白井澄子、笹田裕子編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。(宮副)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ(海外)		13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
佐伯 瑠璃子	選択	2			

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、In(国際性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

興味のある学生は登録のうえ、選択するプログラムをメールで連絡すること。
下記プログラムはコロナ後開催が確約されていないものもある。留学関係の情報を掲示板及び、4月と10月に開催される留学説明会にて確認すること。

【アシスタント・ティーチャープログラム】
英語圏の幼稚園や公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。

開催国及び開催時期の情報は随時更新される。

・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上

・期間：春季休暇中または夏季休暇中10日間以上

【イベントコース：まつりインハワイ】

「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。

・対象学科・学年：ET学科2年次生以上

・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修

・現在新型コロナウイルスの影響により開催未定。

授業計画

- 1 事前学習
- 2 事前学習
- 3 現地実習
- 4 現地実習
- 5 現地実習
- 6 現地実習
- 7 現地実習
- 8 現地実習
- 9 現地実習

10 現地実習

11 現地実習

12 現地実習

13 現地実習

14 現地実習

15 ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法、その他

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。

各々のインターンシップは原則以下のプログラムによって構成される。

①2～3回の事前学習(英語研修や実習準備など)

②現地実習

③ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)と発表

欠席について

事前学習は必ず出席しなければならない。
欠席となった場合は必ず補講に出席すること。

テキスト

適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

- 1 <人魚>をテーマに、アンデルセン(ヨーロッパ)・ディズニー(アメリカ)・小川未明(日本)の表現の違いを考察する
- 2 <民話>をテーマに、南洋諸島と戦前の日本委任統治の歴史的背景を考察する
- 3 <怪談>をテーマに、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が描いた日本を考察する
- 4 <絵本>、<人形>をテーマに、物語に託されたそれぞれの国の文化的背景を考察する
- 5 <移民>をテーマに、日本からのブラジル移民に注目し、当時の政府の政策と神戸港の対応を考察する
- 6 <MANGA>をテーマに、日本の漫画の発展と世界進出について考察する
- 7 <レビュー>をテーマに、宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する
- 8 <留学>をテーマに、森鷗外「舞姫」に描かれた、明治初期のドイツと日本の社会状況の相違について考察する
- 9 宝塚歌劇「MAIHIME」を考察する。(原作:森鷗外「舞姫」)
- 10 塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1 ヴェネチア」に描かれた、イタリアとトルコの文化背景の違いを考察する
- 11 宝塚歌劇「ヴェネチアの紋章」を考察する。(原作:塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1」ヴェネチア)
- 12 プレゼンテーション 発表授業
- 13 プレゼンテーション 発表授業

14 プレゼンテーション 発表授業

15 <ディズニー映画>に注目し、アメリカが描く東アジアについて考察する。

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ(国内)			13969	Ⅱ	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業(旅行会社・ホテル・観光局など)及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とA(自立)を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験(インターンシップ)及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日~2週間となる。尚、体験発表は10月上旬(秋学期・土曜日)に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 業界研究
- 3 企業研究
- 4 エントリーシート作成(自己PR)
- 5 インターンシップの目標設定
- 6 就業体験①
- 7 就業体験②
- 8 就業体験③
- 9 就業体験④
- 10 就業体験⑤
- 11 就業体験発表

授業の方法

グループワークを中心とした講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30%、就業体験50%、プレゼンテーション20%
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

講義内で紹介する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。(最低5日間の就業体験が必要)
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。履修者が30名を超えた場合は抽選とするので、第1回目オリエンテーションは必ず参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

- 神戸と海の物語
神戸のミステリー作家、陳舜臣の作品を中心に、神戸居留地の歴史を振り返る。
- 神戸異人館物語(1)
上田早夕里「トラットリア・ラファエノ」を読み、現在の異人館通りの様相や、神戸のスイーツやパン、洋食文化に触れる。
- 神戸異人館物語(2)
宮本輝「花の降る午後」・妹尾河童「少年H」を読み、雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。
- 阪神間モダニズム
小川洋子「ミーナの行進」を読み、神戸から影響を受けて発展した、阪神間のモダニズム文化を考察する。
- 神戸の発展を支えた女性たち
玉岡かおる「負けんとき ヴォーリス満喜子の種まく日々」・「お家さん」を読み、神戸の発展を支えた女性の生き方を考察する。
- 神戸トアロード物語
稲垣足徳「星を造る人」を読み、トアロード発信の神戸モダニズムについて考察する。また、堀辰雄「旅の絵」を読み、外から見た神戸文化について考察する。
- 神戸新開地物語
横溝正史のミステリーを読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
- 川崎造船所と神戸の町
原田マハ「美しき愚かものたちのタブロー」を読み、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れる。
- 1923年関東大震災と神戸

谷崎潤一郎「細雪」、山本周五郎「須磨寺附近」を読み、関東大震災によって神戸にやって来た人々が、どのような文化交流をなしていたかを考察する。

- 神戸と坂の物語
神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある村上春樹「ノルウェイの森」・「5月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- 映画に登場する神戸の風景
有川浩原作の映画「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。
- 神戸灘区青谷周辺の物語

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス中国語			13832	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 媽	選択	2				

授業の到達目標

中国語の発音、基礎単語と基礎文法を学び、練習問題を通して、中国語の基本表現を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。自己紹介が流暢にできるように繰り返し練習する。中国語会話を楽しく勉強して、コミュニケーション能力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

中国語学習の中に一番大事な部分は発音である、正確な発音を覚えるために、発音練習以外に聞くの練習もたくさんする。中国語の基礎単語と基礎文法をいろいろな形で練習して覚える。異文化を理解するために、中国の文学作品及び唐詩を紹介する。中国の歌も一曲歌えるように挑戦する。中国語検定試験問題の指導を行う。

授業計画

- 第1課～第4課ポイントのまとめ（あいさつする、名前を尋ねる等）
- 第5課～第8課ポイントのまとめ（予定を尋ねる、場所を尋ねる等）
- 「自己紹介」を学ぶ
- 第9課、出来事を尋ねる①
- 第10課、出来事を尋ねる②
- 第11課、希望を尋ねる
- 第12課、行き方を尋ねる
- 第13課、経験を尋ねる
- 第9課～第13課の復習
- 第14課、相手の都合を尋ねる
- 第15課、比較する
- 第16課、条件・情報を尋ねる
- 第17課、進行状況を尋ねる
- 第18課、別れを告げる
- 授業のまとめ・テスト

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と会話練習を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

「できる・つたわる コミュニケーション中国語」 岩井伸子、胡興智著 白水社

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容より、英米文学をより正確に深く読み取れるよう、日々、英米文学作品に親しむ。
さらに、各自が定めたテーマについて、より適切な書籍や論文等の資料を収集し、丁寧に調査を行い、論の裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現することを目指す。かつ、聴き手が正確に理解できるような研究発表ができるよう、発表の演習も行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ基礎力をもとに、各自が決定した研究のための資料、データ、先行論文等を調査、分析を行い、授業内において、各自が作成した論文を発表し、それについてゼミの全員でディスカッションを行う。
また、昨年に続き、英米文学やエッセイなどの原書や時事ニュースを読解することにより、英語力の向上を図る。毎授業において、発表とディスカッションを行うので、授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
卒業研究について発表する。
- 2 課題の発表
- 3 課題の発表
- 4 課題の発表
- 5 課題の発表
- 6 課題の発表
- 7 課題の発表
- 8 課題の発表
- 9 課題の発表
- 10 課題の発表
- 11 課題の発表
- 12 課題の発表
- 13 課題の発表
- 14 課題の発表
- 15 最終発表を行う。

まとめ

授業の方法

個人研究の発表とディスカッションを中心に行う。
発表毎にレポートを提出する。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 30%、発表 40%、レポート 30%
課題、発表のフィードバックは授業中に行う。レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

出席を重視する。欠席1回について平常点より4点減点する。
規定に従う。

テキスト

ハンドアウトを使用する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加し、発表と毎回のレポート提出が必須である。
出席を重視する。
平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- 1 ガイダンスと個人研究の進め方
- 2 個人研究テーマの発表
- 3 個人研究発表とディスカッション
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 個人研究発表とディスカッション
- 8 個人研究発表とディスカッション
- 9 個人研究発表とディスカッション
- 10 個人研究発表とディスカッション
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 個人研究発表とディスカッション
- 15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 卒業研究 口頭試問

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

海外、および日本の文化や社会的事情に常に関心をもち、それらを詳しく調査、分析を行い考察することが重要である。たとえ日本文化に属する研究内容であっても、現在のような情報化社会においては、海外の資料や情報が欠かせない。各自が定めたテーマについて調査をし、裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現し、発表する。最終的に卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

各自の興味のあるテーマについて、国内のみならず海外の資料も入手して、丁寧な調査を行い、論理的思考を身につけ、卒業研究を書き上げる。授業では、各自の研究について発表とディスカッションを行うので授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
研究発表
- 2 卒業研究の発表とディスカッション
- 3 卒業研究の発表とディスカッション
- 4 卒業研究の発表とディスカッション
- 5 卒業研究の発表とディスカッション
- 6 卒業研究の発表とディスカッション
- 7 卒業研究の発表とディスカッション
- 8 卒業研究の発表とディスカッション
- 9 卒業研究の発表とディスカッション
- 10 卒業研究の発表とディスカッション
- 11 卒業研究の発表とディスカッション
- 12 卒業研究の発表とディスカッション
- 13 卒業研究の発表とディスカッション
- 14 総まとめ
口頭試問について
- 15 総まとめ

授業の方法

各自が選んだテーマについて、国内、および海外の書物、文献、論

文などの資料を収集し、正確に読解する。各自で論を構成できるよう論理的思考が身につける。授業では、各自の発表後にクラス内でのディスカッションを行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 30％、発表 40％、レポート 30％

欠席について

出席を重視する。欠席1回について平常点より4点減点する。規定に従う。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加し、発表と毎回のレポート提出が必須である。出席を重視する。平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1			13806	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	1				

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Testスコア400点到達を目指す。そのために必要な英語力（語彙力、読解力、リスニング力）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）、およびA（自律）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、文法事項の復習、リスニング力、語彙力、読解力の育成を行う。基本的な読解力向上のために多読（図書館に配架されている楽しく読みやすい多読書を読む）を行う。多読書1冊読解毎に読書レポートを作成する。また、TOEICの問題形式に慣れるために、テキストだけでなく、他のTOEICテスト形式の問題演習も実施する。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Shopping
- 3 Unit 1 Shopping
- 4 Unit 2 Transportation/ Street Scenes
- 5 Unit 2 Transportation/ Street Scenes
- 6 Unit 3 Travel
- 7 Unit 3 Travel
- 8 Review Quiz
Listeningのためのニュース動画、またはDVD鑑賞
- 9 Unit 4 Restaurants/ Cooking
- 10 Unit 4 Restaurants/ Cooking
- 11 Unit 5 Health
- 12 Unit 5 Health
- 13 Unit 6 In the Office
- 14 Unit 6 In the Office
- 15 総復習
Review Quiz

授業の方法

授業内容の復習は必須である。毎週、1冊以上多読書を読み、読書レポートを提出する。小テスト、およびReview Quizを実施する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験（小テスト含む）40% 多読30%
小テスト、および Review Quizは授業内でフィードバックを行う。

欠席について

欠席1回につき、平常点から3点減点する。
規定に従う。

テキスト

Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test, Revised Edition>新形式対応！（Cengage Learning）、Basic Grammar in Use（Cambridge University Press）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。
授業と課題に熱心に取り組む姿勢を重視する。
英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 104			13908	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

英語の音声的特徴、特に聞き手が理解する上で重要な英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い英語の音素の特徴を理解し、実践できるようにする。また教職課程履修者が、中学校及び高等学校の生徒が理解しやすい英語の発音を身につけることも目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。「伝わる」英語の発話及び聴解力の向上を目指し、クリアな発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を学ぶ。特に「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。実践的に聴いて繰り返し練習をするだけでなく、理論的に理解をすることで、初めて読む英文でも分かりやすく読むことができるようになることを目指して学修する。

授業計画

- 1 導入（英語学習における発音学習の位置づけ、事前診断テスト）
- 2 事前診断テスト解答解説と練習
- 3 音節（音節とリズム、カタカナ語と英語の音節数の違い）
- 4 音節（語の音節数、現在形と過去形の音節数の違い）
- 5 母音（アルファベット読みとフォニックス読み）
- 6 英語特有の子音（アルファベット読みとフォニックス読み）
- 7 語強勢（強勢と母音の長さ）
- 8 語強勢（強勢と母音の音色、押韻）
- 9 語強勢（語強勢の法則）
- 10 文強勢（内容語と機能語、品詞）
- 11 文強勢（文の内容に即した強勢）
- 12 文強勢（強勢の付く機能語）
- 13 その他の子音（日本語との違い）
- 14 文章の音読
- 15 練習、復習、まとめ

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

欠席について

- 1) 課題の提出がされない又はテストを受けない場合は、当該評価を「0」とする。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認すること。

テキスト

Judy B. Gilbert, Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension, 4th ed. CUP.

留意事項

発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能である。上達させるために練習を繰り返すこと、また授業中も積極的に声を出すことが求められる。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET	13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)		

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。(箕野)

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。(宮副)

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。(箕野)
英米の児童文学の文化と歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外ではフランスの1作品を鑑賞する。(宮副)

授業計画

- 1 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
- 2 「金太郎」・「酒呑童子伝説」
- 3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 4 有島武郎「一房の葡萄」
- 5 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 6 岡田淳「童退治の騎士になる方法」
- 7 日本の現代児童文学について
- 8 英米の児童文学の歴史
- 9 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- 10 ナーサリーライム(マザーグース)
- 11 L.M.オルコット『若草物語』
- 12 R.L.スティーブンソン『宝島』
- 13 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 14 ペアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。(箕野)
講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。(宮副)

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験(レポート)30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。(箕野)

平常点30% レポート(2回)60% 提出物等10%、で評価する。(宮副)

レポートは2回であるが、ミニレポートの提出も2～3回求める。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。(箕野)
『英米児童文化 55のキーワード』白井澄子、笹田裕子編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。(宮副)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ(海外)		13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
佐伯 瑠璃子	選択	2			

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、In(国際性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

興味のある学生は登録のうえ、選択するプログラムをメールで連絡すること。
下記プログラムはコロナ後開催が確約されていないものもある。留学関係の情報を掲示板及び、4月と10月に開催される留学説明会にて確認すること。

【アシスタント・ティーチャープログラム】
英語圏の幼稚園や公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。

開催国及び開催時期の情報は随時更新される。

・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上

・期間：春季休暇中または夏季休暇中10日間以上

【イベントコース：まつりインハワイ】

「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。

・対象学科・学年：ET学科2年次生以上

・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修

・現在新型コロナウイルスの影響により開催未定。

授業計画

- 1 事前学習
- 2 事前学習
- 3 現地実習
- 4 現地実習
- 5 現地実習
- 6 現地実習
- 7 現地実習
- 8 現地実習
- 9 現地実習

10 現地実習

11 現地実習

12 現地実習

13 現地実習

14 現地実習

15 ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法、その他

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。

各々のインターンシップは原則以下のプログラムによって構成される。

①2～3回の事前学習(英語研修や実習準備など)

②現地実習

③ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)と発表

欠席について

事前学習は必ず出席しなければならない。

欠席となった場合は必ず補講に出席すること。

テキスト

適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 601		13949	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子	選択	2			

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 8 A Young Blind Whiz
- 3 Chapter 8 A Young Blind Whiz
- 4 Chapter 9 How to Make a Speech
- 5 Chapter 9 How to Make a Speech
- 6 Chapter 10 Conversational Ball Games
- 7 Chapter 10 Conversational Ball Games
- 8 Mid Term
- 9 Chapter 11 Letters of Application
- 10 Chapter 11 Letters of Application
- 11 Chapter 12 Out to Lunch
- 12 Chapter 12 Out to Lunch
- 13 Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
- 14 Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
- 15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam	40%
Tests and Quizzes	30%
Class Participation	20%
Homework	10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford, Select Readings Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Patricia MachLachlan (1985). *Sarah, Plain and Tall* (西出公之編註) (1995). 『のっぽのサラ』成美堂.

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 602		13951	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Cory McKENZIE	選択	2			

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 10 Cause and Effect Paragraph
- 3 Unit 10 Cause and Effect Paragraph
- 4 Unit 11 Persuasive Paragraph
- 5 Unit 11 Persuasive Paragraph
- 6 Unit 12 Problem-Solution Paragraph
- 7 Unit 12 Problem-Solution Paragraph
- 8 Mid Term
- 9 Unit 13 About the Essay
- 10 Unit 13 About the Essay
- 11 Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
- 12 Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
- 13 Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
- 14 Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
- 15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report	20%
Tests and Quizzes	10%
Class Participation	20%
Homework	50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cengage Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay, Matthew Taylor & David Kluge

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
榎本 雄三	選択	2	テクニカルライター、実務翻訳者			

授業の到達目標

文芸翻訳とは異なる実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEI パートナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

授業の概要

和文英訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの実際の文書を使って演習を行う。毎回授業内容に基づいた宿題を課し、翌週の授業でその説明を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

- 1 授業の概要/実務翻訳の特徴
- 2 和文英訳の基本技術/ライティングの3C
- 3 可算名詞、不可算名詞/定冠詞、不定冠詞
- 4 強い動詞/自動詞と他動詞
- 5 無生物主語/冗長な英文
- 6 分詞構文
- 7 英文説明書の表現
- 8 英文手順書の表現
- 9 プレゼンテーションの英文
- 10 英文表記規則
- 11 簡潔な表現
- 12 英文リライト
- 13 和文英訳演習
- 14 和文英訳演習
- 15 翻訳支援ツール/AI自動翻訳

授業の方法

訳文作成と翻訳内容の検討を中心とする。翻訳に必要な背景知識の説明も行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題の提出を求め、授業中にフィードバックを行う。定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞、英文雑誌、インターネットニュースなどの記事や各種パンフレットなどを教材にする。

参考図書

それわ英語じゃないだらふ、大西泰斗、幻冬舎
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社

留意事項

ほぼ毎回課題を宿題として出すので、自分の訳文を作成して授業に参加すること。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	2				

授業の到達目標

様々な国々とジャンルの英語圏学を楽しく読みながら、文学読解に注目すべき要素やさまざまな表現法を学ぶ。同時に、それらの作品に表現されている海外の文化を理解する。このクラスでは、KAISEI パートナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を考える。

授業の概要

授業では、Edgar Allan Poe、Charles Dickens、Graham Greene、Ernest Hemingway、Katherine Mansfieldなど著名な作家の短編について解説されたテキストで学ぶとともに、その原書についてもできる限り読みすすめることとする。原書を正確に読解し、それぞれの作品にこめられたテーマを理解することにより深く感動する経験をしてもらいたい。

原書読解する作品については、担当者を決めて発表後、グループディスカッションを実施する。また各作品についてレポートの提出が必須となる。

またDVDなどの視聴覚教材によって「読み、聴き、書く」という英語の3分野のスキルを養成する。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 1. Edgar Allan Poe/“The Tell-Tale Heart”について
- 3 1.“The Tell-Tale Heart”テキスト内容の理解、発表とディスカッション、
- 4 20. Graham Greene/“The Invisible Japanese Gentlemen”について
- 5 20.“The Invisible Japanese Gentlemen”テキスト内容の理解、発表とディスカッション
- 6 9. Earnest Hemingway/“Hills Like White Elephants”について
- 7 9.”Hills Like White Elephants” テキスト内容の理解、発表とディスカッション、
- 8 13. Irwin Shaw/“The Girls in Their Summer Dresses”について
- 9 13.”The Girls in Their Summer Dresses” テキスト内容の理解、発表とディスカッション
- 10 23. Raymond Carver/“Are These Actual Miles?”について
- 11 23.”Are These Actual Miles?” テキスト内容の理解、発表とディスカッション
- 12 2. Charles Dickens/“Christmas Carol”
テキスト理解とDVD鑑賞

- 13 7. Katherine Mansfield/“The Garden Patry”
- 14 7.”The Garden Patry”テキスト内容の理解、発表とディスカッション
- 15 総復習 授業内で読んだ作品についてディスカッションを行う。

授業の方法

講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。授業内では原書を中心に授業を実施するが、読解が難しい場合は、図書館等で翻訳書を借りて読んでもよい。

準備学修

Webを参照する。

課題・評価方法、その他

授業内での積極的な発表や意見交換を高く評価する。また、授業内で読解した各作品についてレポートを作成する。平常点30% レポート60% 提出物等10%、で評価する。

欠席について

出席重視。授業参加がなければ、レポートをこなすことは困難である。規定に従う。

テキスト

『TOP 30 - Essential Short Stories in English: 1843 to 2000』 Jim Knudsen著 南雲堂
および、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

授業で取り上げる原書の作品、および授業進度は、学生の要望や読解力等により変更することがある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法 I			13705	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	2	中学校・高等学校英語科教諭、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

小学校・中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の基礎を、次に続く英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業との連携も視野に入れて身に付ける。
英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

授業の概要：学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導についての基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身につける。
教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」で最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができればならない。それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとっての重要課題と捉え、学生が積極的に考え、課題発表や実践をしてもらう予定である。

授業計画

- 英語教育の目的(1)小・中・高等学校学習指導要領の理解
- 英語教育の目的(2)小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方
- 第2言語習得研究(1)学習者の特質:認知的要因
- 第2言語習得研究(2)学習者の特質:情意的要因
- 第2言語習得研究(3)学習者の特質:動機付け
- 英語教材研究(1)音声とつづり字
- 英語教材研究(2)語彙と表現
- 英語教材研究(3)文法と情報構造
- 英語教材研究(4)Eラーニング、ICT教育
- 音声言語指導 リスニング・スピーキング(やり取り・発音)の指導
- 音声言語指導 リスニング・スピーキングの授業展開、ティーミング

- 12 書記言語指導 リーディング・ライティングの指導
- 13 言語能力の測定と評価(1)パフォーマンス評価等評価方法と評価基準
- 14 言語能力の測定と評価(2)テストの意義と作成上の留意点
- 15 総括 英語教師の資質と能力

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、発表点40%、レポート20%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

『新・グローバル時代の英語教育 ー新学習指導要領に対応した英語科教育法』 岡秀夫 編著 成美堂

参考図書

『中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】』(文部科学省)
『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】』(文部科学省)
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的な学習態度を評価する。課題発表に際しては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ			13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「英語」)			

授業の到達目標

中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導の基礎及び異文化理解を、次に続く英語科教育法Ⅲ・Ⅳの授業との連携も視野に入れて徹底する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」の養成を重要な柱と位置づけ、以下（授業計画）の具体的項目に関して教育法の鳥瞰図の全体像を示し、学生の自覚・理解を促す。

授業計画

- 1 はじめに:授業の概要について
- 2 学習指導要領の理解
- 3 英語の指導目標と内容
- 4 学習者の要因
- 5 言語習得の理論と諸問題
- 6 発音の指導
- 7 文字と綴りの指導
- 8 語彙表現、文法の指導
- 9 リスニングの指導
- 10 スピーキングの指導
- 11 リーディングの指導
- 12 ライティングの指導
- 13 言語技術を統合した指導
- 14 異文化理解
- 15 総括(複数領域を統合した言語活動の指導を中心に)、および期末評価

授業の方法

講義のほかに各自の発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：講義のテーマによってはレポート作成を課し、講義中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。
評価方法：平常点20% 発表20% レポート 30% 定期試験30%
授業中の積極的な質疑応答を高く評価する。

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『最新英語科教育法入門』 研究社

参考図書

白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』(岩波書店)
中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】(文部科学省)
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法 I		13705	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
天野 史子	選択	2	中学校・高等学校英語科教諭、小学校英語活動支援員		

授業の到達目標

小学校・中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の基礎を、次に続く英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業との連携も視野に入れて身に付ける。
英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

授業の概要：学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導についての基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身につける。
教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」で最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができなければならない。それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとっての重要課題と捉え、学生が積極的に考え、課題発表や実践をしてもらう予定である。

授業計画

- 1 英語教育の目的(1)小・中・高等学校学習指導要領の理解
- 2 英語教育の目的(2)小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方
- 3 第2言語習得研究(1)学習者の特質:認知的要因
- 4 第2言語習得研究(2)学習者の特質:情意的要因
- 5 第2言語習得研究(3)学習者の特質:動機付け
- 6 英語教材研究(1)音声とつづり字
- 7 英語教材研究(2)語彙と表現
- 8 英語教材研究(3)文法と情報構造
- 9 英語教材研究(4)Eラーニング、ICT教育
- 10 音声言語指導 リスニング・スピーキング(やり取り・発音)の指導
- 11 音声言語指導 リスニング・スピーキングの授業展開、ティーミング

- 12 書記言語指導 リーディング・ライティングの指導
- 13 言語能力の測定と評価(1)パフォーマンス評価等評価方法と評価基準
- 14 言語能力の測定と評価(2)テストの意義と作成上の留意点
- 15 総括 英語教師の資質と能力

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、発表点40%、レポート20%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

『新・グローバル時代の英語教育 ー新学習指導要領に対応した英語科教育法』 岡秀夫 編著 成美堂

参考図書

『中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】』(文部科学省)
『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】』(文部科学省)
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的な学習態度を評価する。課題発表に際しては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ		13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「英語」)		

授業の到達目標

中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導の基礎及び異文化理解を、次に続く英語科教育法Ⅲ・Ⅳの授業との連携も視野に入れて徹底する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」の養成を重要な柱と位置づけ、以下（授業計画）の具体的項目に関して教育法の鳥瞰図の全体像を示し、学生の自覚・理解を促す。

授業計画

- 1 はじめに:授業の概要について
- 2 学習指導要領の理解
- 3 英語の指導目標と内容
- 4 学習者の要因
- 5 言語習得の理論と諸問題
- 6 発音の指導
- 7 文字と綴りの指導
- 8 語彙表現、文法の指導
- 9 リスニングの指導
- 10 スピーキングの指導
- 11 リーディングの指導
- 12 ライティングの指導
- 13 言語技術を統合した指導
- 14 異文化理解
- 15 総括(複数領域を統合した言語活動の指導を中心に)、および期末評価

授業の方法

講義のほかに各自の発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：講義のテーマによってはレポート作成を課し、講義中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。
評価方法：平常点20% 発表20% レポート 30% 定期試験30%
授業中の積極的な質疑応答を高く評価する。

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『最新英語科教育法入門』 研究社

参考図書

白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』(岩波書店)
中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】(文部科学省)
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ I	ET		13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shimeの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can-Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ II	ET		13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	2	児童英語講師、児童英語・小学校英語指導者養成指導、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュ I で体験した指導法を活用し、年齢・発達過程にあった指導案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した指導法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、指導案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

- 1 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「指導案作成のポイント」
- 2 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成法」
- 3 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「指導案草案発表」
- 4 実習授業指導案作成(1)『教材研究』
- 5 実習授業指導案作成(2)『教具作成』
- 6 実習授業指導案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 7 実習授業指導案発表と模擬授業
- 8 第1回 小学校英語活動 実習授業
- 9 実習リフレクション
- 10 実習授業指導案作成(4)『教材研究・指導案発表』
- 11 実習授業指導案作成(5)『教具作成』
- 12 実習授業指導案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 13 実習授業指導案発表と模擬授業
- 14 第2回 小学校英語活動 実習体験
- 15 まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成
- 16

授業の方法

指導案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の指導・支援を実際に現場で体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、レポート30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、教材配布

参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂
『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店
『小学校英語 はじめる教科書』小川隆夫・東仁美 mpi

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。
実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空事業論			13843	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石井 由美子	選択	2	日本航空株式会社元国際線客室乗務員研修講師として人材育成、インバウンド接客、SDGs教育に携わる			

授業の到達目標

グローバル市場の中で航空事業の歴史、ビジネス戦略を学び、航空事業について基本的な説明ができる。
航空事業の歴史やオープンスカイ政策とその後の各航空会社のビジネス戦略を理解し、グローバルライアンス、台頭するLCC（格安航空会社）とFSC（フルサービスキャリア）の戦略の違い、変化する世界の空港やその機能を理解する。また、一便の飛行機の運航の安全性と快適性がいかに多くの人々、セクションによって担保されているのかを総合的に理解する。
感染症、ウクライナ情勢、脱炭素社会など、変化し続ける社会情勢にあって、航空業界がどのような課題を持ち、それに向けて対応しているか、どのような未来に向かうかを考える。
また、航空業界に限らず共通する「接客・おもてなし」についても基本的な考えを学び、普段の生活にも役立ち居振る舞いを身につける。これらを通して、このクラスではKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の視座を持つことを目標とする。

授業の概要

エアラインビジネスのオペレーションの概要や歴史、航空政策、空港の機能、経済特性、経営動向やエアラインが置かれている社会環境や課題などについて、身近な例や豊富な写真などを用いて、わかりやすく学習する。
航空業界は世界経済や社会情勢によって日々変化を余儀なくされる。新型コロナウイルスの感染拡大によって航空需要は一時コロナ前の9割にまで落ち込んだ。そして航空需要が復活した現在は、コロナ前とは違った価値観、需要が生まれている。航空事業に限らずどの業界にあっても、地球温暖化、脱炭素は生き残りをかけた戦略となっている。変化し続ける社会情勢にあって、航空業界がどのような課題をもち対応しているのか、知識を得た上で自ら考える姿勢を養う。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、航空機の歴史
- 2 航空自由化への流れ オープンスカイ
- 3 空港の機能
- 4 客室乗務員の仕事
- 5 空港業務と旅客ハンドリング
- 6 JALとANA
- 7 接客の基本

- 8 SDGsとツーリズム
- 9 ネットワークとライアンス
- 10 FFP・ブランド戦略
- 11 LCCの台頭とFSCへの影響
- 12 空の安全
- 13 CIQの機能
- 14 航空貨物ビジネス
- 15 航空業界の脱炭素への取り組みと未来

授業の方法

講義を中心とするが、双方向のコミュニケーションをもち、グループディスカッション、間違えることを恐れず自由に発言できる機会をもつ。

準備学修

関連項目をWEB、関連図書で参照すること。

課題・評価方法、その他

課題提出40%、平常点（ワークショップなどの積極的な姿勢など）20%、定期試験40%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。
基本的には投影資料についてメモをとること。

参考図書

「エアラインビジネス入門 第2版」（2022）稲本恵子 編書
「航空産業入門 第2版」（2017）ANA総合研究所

留意事項

積極的な発言、参画意識を持つこと。
世界の航空産業の動きや日本の観光立国に向けた航空政策、観光業界、航空業界の脱炭素の取り組みなどに関するニュースなどは注目しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合はオフィスアワーを活用すること。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客誘致を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEI パーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1 ガイドダンス
- 2 ホテル産業史Ⅰ
- 3 ホテル産業史Ⅱ
- 4 ホテル産業史Ⅲ
- 5 宿泊産業の市場特性
- 6 ホテルの組織と役割
- 7 客室事業・基本業務
- 8 客室事業・組織とサービス
- 9 客室事業・価格戦略
- 10 料飲事業
- 11 バンケット事業
- 12 プライダル事業
- 13 MICE事業
- 14 ホテル再生
- 15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法、その他

課題30%、総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

適宜資料配布

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』
鈴木博、大庭禎一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 204		13916	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	選択	2	専門学校講師、社団法人国際英語発音協会理事		

授業の到達目標

日本語と特に違いの大きい子音と母音の発音に習熟し、相手に伝わりやすい発話ができることを目標とする。このクラスではKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を涵養する。

授業の概要

英語音声に関する実践的訓練を行い、「伝わる」英語発音を目指す。

授業計画

- 1 ガイダンス、U1「口の中を意識する」、U2「英語らしい音」
- 2 U4「thankのth」、U5「thisのth」
- 3 U6「feelのf」、U17「appleのa」
- 4 U7「visitのv」、U18「upのu」
- 5 U8「rightのr」、U9「liveのl」
- 6 U19「birdのir」
- 7 U10「practiceのpr」、U20「carのar」
- 8 U11「playのpl」、中間考査
- 9 U12「rとl(応用編)」
- 10 U21「あいまいな母音」
- 11 U13「woodのw」、U22「lowのowとlawのaw」
- 12 U14「inのn」、U23「itのiとeatのea」
- 13 U15「singerのng」、U24「footのooとfoodのoo」
- 14 U16「まぎらわしい子音s,z,t」、Part 3の復習
- 15 Part 2の復習、期末考査

授業の方法

リズムと強勢を意識し、多くの演習と音読練習を行う。また練習と復習の成果をチェックするため毎回個人的に発音チェックを行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点より2点減点する。

テキスト

静哲人著『発音入門 音トレーニングドリル』（アルク）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

付属CD教材を用いて確実に復習すること。毎回、発音記号が記載されている英和辞書（紙版、電子版など）を必ず持参すること。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 300		13917	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
David John SANDEMAN	必修	2			

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 5 Food, 5.1 My fridge
- 3 5.2 A lifetime in numbers
- 4 5.3 Are you ready to order?
- 5 5.4 Beach Barbecue
- 6 Review
- 7 Presentations
- 8 Mid Term
- 9 Unit 6 The Past, 6.1 In their past
- 10 6.2 Time twins
- 11 6.3 What did you do?
- 12 6.4 Nelson Mandela
- 13 Review
- 14 Presentations
- 15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Frances Eagles and Steve Oaks, SpeakOut: Elementary, 2nd edition. (Pearson)

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 1		13822	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	必修	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師		

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Test スコア500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。類出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1 ガイダンス、Unit 9 Phone Calls
- 2 Unit 9 Phone Calls、単語テスト1
- 3 Unit 10 Construction & Landscaping、単語テスト2
- 4 Unit 10 Construction & Landscaping、単語テスト3
- 5 Unit 11 Personnel、単語テスト4
- 6 Unit 11 Personnel、単語テスト5
- 7 Unit 12 Business Ventures、単語テスト6
- 8 Unit 12 Business Ventures、単語テスト7
- 9 Unit 13 Media、単語テスト8
- 10 Unit 13 Media、単語テスト9
- 11 Unit 14 Entertainment、単語テスト10
- 12 Unit 14 Entertainment、単語テスト11
- 13 Unit 15 Publishing、単語テスト12
- 14 Unit 15 Publishing、単語テスト13
- 15 復習、期末考査

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Smart Route to the TOEIC (C) L&R Test (Cengage Learning)、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・ダウンロード音声も用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 304		13924	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	選択	2	専門学校講師、社団法人国際英語発音協会理事		

授業の到達目標

日本語と特に違いの大きい子音と母音の発音に習熟し、正しいリズムと強勢を伴って相手に伝わりやすい発話ができることを目標とする。また正しい発音を身につけることによってリスニング力を向上させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を涵養する。

授業の概要

英語音声に関する実践的訓練を行い、「伝わる」英語発音を目指す。

授業計画

- 1 ガイダンス、Program One 外国語学習法
- 2 Program One 外国語学習法
- 3 Program Two ついてない日
- 4 Program Two ついてない日
- 5 Program Three お気に入りの時間
- 6 Program Three お気に入りの時間
- 7 復習、中間考査
- 8 Program Four ジョーク集-1
- 9 Program Five さまざまなアナウンス
- 10 Program Six 禁煙
- 11 Program Seven 体形と体調の保ち方
- 12 Program Eight ジョーク集-2
- 13 Program Nine クリスマスプレゼント O・ヘンリー短編より
- 14 Program Nine クリスマスプレゼント O・ヘンリー短編より
- 15 総復習、期末考査
- 16

授業の方法

リズムと強勢を意識し、多くの演習と音読練習を行う。また練習と復習の成果をチェックするため毎回個人的に発音チェックを行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点より2点減点する。

テキスト

森沢洋介著「みるみる英語力がアップする音読パッケージトレーニング」（ベレ出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

付属CD教材を用いて確実に復習すること。毎回、発音記号が記載されている英和辞書（紙版、電子版など）を必ず持参すること。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 402		13929	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
David John SANDEMAN	必修	2			

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7 Classifying classmates
- 3 Unit 7 Classifying classmates
- 4 Unit 8 The job interview
- 5 Unit 8 The job interview
- 6 Unit 9 Personal goals
- 7 Unit 9 Personal goals
- 8 Mid Term
- 9 Unit 10 Architect
- 10 Unit 10 Architect
- 11 Unit 11 My role models
- 12 Unit 11 My role models
- 13 Unit 12 Be a reporter
- 14 Unit 12 Be a reporter
- 15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report	20%
Tests and Quizzes	10%
Class Participation	20%
Homework	50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 2, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 2		13823	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	必修	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師		

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Test スコア550点到達を目指す。そのために必要な英語力(特にTOEIC必須表現)の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1 Unit 01 人物の動作表現/品詞・代名詞
- 2 Unit 02 疑問詞で始まる疑問文/態・分詞、単語テスト1
- 3 Unit 03 店・ホテルでの会話/読解の基礎を身につける、単語テスト2
- 4 Unit 04 留守番電話/詳細情報を特定する、単語テスト3
- 5 進捗調整、単語テスト4
- 6 Unit 05 物に関する描写/話の展開を読み取る、単語テスト5
- 7 Unit 06 Yes/No疑問文・選択疑問文/接続詞・前置詞、単語テスト6
- 8 Unit 07 日常生活における会話/内容把握に挑戦する、単語テスト7
- 9 Unit 08 アナウンス・宣伝/語彙問題・その他、単語テスト8
- 10 進捗調整、単語テスト9
- 11 Unit 09 ステートメント・付加疑問文/時制・代名詞・語彙、単語テスト10
- 12 Unit 10 オフィスでの会話①/マルチプルパッセージ(2つの文書)、単語テスト11
- 13 Unit 11 トーク(会議・イベント)/Part 5の復習、単語テスト12
- 14 Unit 12 オフィスでの会話②/つなぎ語・文選択、単語テスト13
- 15 復習、期末考査

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Mastery Drills for the TOEIC L&R Test All in One Advanced (桐原書店)、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・ダウンロード音声も用いて確実に復習すること。・英和辞書(紙版、電子辞書いずれでも可)を必ず持参すること。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
翻訳・通訳論入門			13301	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
榎本 雄三／和泉 有香	選択	2	榎本：テクニカルライター、実務翻訳者 和泉：劇団通訳、全国通訳案内士（英語）			

授業の到達目標

榎本：翻訳文作成技術と背景知識調査手法を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を目指す。
和泉：英語と日本語という構造の全く異なった2言語の中に共通点を見出し、特に英語知識の深化を図ることにより、文字と音声において2言語を自由に行き来する能力を身につける。また日本と日本文化への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）の涵養を目指す。

授業の概要

榎本：従来の英文解釈と翻訳との違い、翻訳に必要な発想の転換を学ぶ。和泉：単なる「英文和訳」・「和文英訳」ではない通訳技術の基本と同時に、人前で話すための技術を身につける。

授業計画

- 1 榎本・和泉：ガイダンス、授業の概要
- 2 適語を見つける
- 3 訳出の順序
- 4 無生物主語
- 5 分詞構文
- 6 順送りの訳
- 7 さまざまな英文解釈
- 8 AI自動翻訳
- 9 大学生活
- 10 趣味（スポーツ、音楽、読書）
- 11 海外文化
- 12 国際交流（1）実践演習1
- 13 国際交流（2）実践演習2
- 14 日本の文化（和食、温泉、回転寿司）
- 15 総復習、期末考査

授業の方法

榎本（前半担当）：事前課題を課し、訳文作成と翻訳内容の検討を行う。和泉（後半担当）：大量の演習と暗唱が中心となる。なお授業計画については柔軟に対応する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

榎本：定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。和泉：平常点50%、定期試験50%

欠席について

榎本：欠席した回数、その回の課題を提出すれば考慮する。和泉：欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

榎本：特定のテキストを使用せず、英字新聞、英文雑誌などの記事を教材にする。和泉：オリジナルプリント

参考図書

榎本：「赤毛のアン」をめぐる言葉の旅 上白石萌音・河野万里子著（NHK出版） 和泉：授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

榎本：授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。和泉：英和辞書（紙版、電子版いずれでも可）を必ず持参すること。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論			13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

本講義は英語の成り立ちや英語の仕組みを幅広く理解することを目的とし、英語を科学的にひもといていく。KAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養うと同時に、より理解を深めるためのグループワークを通してK（思いやり）を学ぶ。

授業の概要

英語学の分野で取り扱われている研究領域全体を次の授業計画に従って概観する。英語が人と歩んできた歴史とその今、語や文の構造や仕組み、英語が伝える意味について講義をする。基本的に講義形式をとるが、より深い理解のため、様々な理論を踏まえながらグループワークやディスカッションを通して考える。

授業計画

- 1 オリエンテーション 授業の進め方や履修条件、言語学研究の概説を行います。
- 2 英語史（1） 英語の成り立ちから現在までの歴史を概観、古期英語
- 3 英語史（2） 中期英語・近代英語
- 4 世界の中の英語 世界で使用される英語、現在の国際共通語として使用されている英語
- 5 音韻論（1） 発音する際の身体の器官、英語の音の構造
- 6 音韻論（2） 英語の音の構造
- 7 形態論（1） 分野の概観
- 8 形態論（2） 語の内部構造、語形成のパターン
- 9 統語論（1） 分野の概観
- 10 統語論（2） 文構造とそのパターン
- 11 意味論（1） 分野の概観
- 12 意味論（2） 語の意味と文の意味の関連
- 13 語用論（1） 分野の概観
- 14 語用論（2） 言葉の意味と話し手の意図
- 15 振り返り

授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

稲木昭子、堀田知子、沖田知子『新・えいご・エイゴ・英語学』（松柏社）
その他適宜プリントを配布

参考図書

影山太郎、日比谷潤子、プレント デ・シェン 著『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』（くろしお出版）

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 3			13964	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Test スコア600点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。類出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1 ガイダンス、【TEST1 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策
- 2 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト1
- 3 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト2
- 4 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト3
- 5 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト4
- 6 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト5
- 7 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト6
- 8 【TEST2 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト7
- 9 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト8
- 10 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト9
- 11 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト10
- 12 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト11
- 13 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト12
- 14 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト13
- 15 Part 7（複数文書）対策、期末試験
- 16

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

公式TOEIC (R) Listening & Reading問題集9 (IIBC)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 4			13966	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Test スコア650点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。類出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1 ガイダンス、【TEST1 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策
- 2 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト1
- 3 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト2
- 4 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト3
- 5 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト4
- 6 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト5
- 7 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト6
- 8 【TEST2 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト7
- 9 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト8
- 10 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト9
- 11 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト10
- 12 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト11
- 13 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト12
- 14 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト13
- 15 Part 7（複数文書）対策、期末試験
- 16

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

公式TOEIC (R) Listening & Reading問題集10 (IIBC)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。